

知事記者会見の概要

日 時：令和5年9月15日(金) 10:02～10:38

場 所：502会議室

出席記者：13名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 秋の交通安全県民運動について

代表質問

- (1) JR米坂線の復旧について

フリー質問

- (1) 代表質問に関連して
- (2) 第2次岸田再改造内閣における女性閣僚の登用について
- (3) 高温・少雨に伴う農林水産業への影響と対策について
- (4) 加藤鮎子衆議院議員の子ども政策大臣就任に伴う子育て政策への要望について
- (5) 本日本予定されていた知事による「つや姫」「雪若丸」の稲刈りの中止について

<幹事社：読売・日経・YTS>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

9月に入りましたけれども、まだ残暑が続いております。しばらく続くようです。明日以降の3連休も、30℃を超える暑い日が予測されております。

県民の皆様にはくれぐれも熱中症にならないよう、ご注意くださいと思います。

連休中は、県内でも多くのイベントが予定されていると思われれます。外出される際には、こまめに水分をとるなどの熱中症を予防する行動をとっていただきますようお願いいたします。

それからですね、大変朗報が続いております。この度の内閣改造で本県選出の加藤鮎子衆議院議員がこども政策担当大臣にご就任されました。また、鈴木憲和衆議院議員が農林水産副大臣に就任をされるということも内定という形で、まだでありますけれども、その予定ということでもあります。

大変、喜ばしく思っています。お二人に心からお祝いを申し上げたいと思います。加藤大臣には、少子化という我が国が直面する最大の危機の克服に向けて、また鈴木副大臣には、本県を含む、農林水産業の振興活性化に向けて、それぞれお力を存分に発揮していただきたいと考えております。ご期待を申し上げます。

県としましても、お二方のお力添えもいただきながら、本県の発展に向けて、政府と地方が力を合わせて、様々な取組みを前に進めてまいりたいと考えているところであります。

それから、先般、8月31日から9月10日まで、台湾で開催された野球のU-18ワールドカップにおきまして、天童市出身で、山形中央高校3年の武田陸玖選手が所属する高校日本代表チームが、決勝戦で地元台湾を破り、見事初優勝を果たされました。誠にめでとうございます。

武田選手は大会期間中、投手と打者の二刀流で大活躍をされました。決勝戦でも、4番打者として先発出場し、2打数1安打と優勝に大きく貢献され、県民に勇気と感動を届けてくれました。今後、益々のご活躍を期待しております。

それから、昨日、天童市出身の中野拓夢選手が所属する阪神タイガースが18年ぶりに見事にセ・リーグ優勝を果たしました。おめでとうございます。

中野選手は今シーズン、チームの主力として1年を通して大活躍をされ、優勝に大きく貢献されました。

今後、日本一に向けて更なる活躍を期待しております。

☆発表事項

知事

それから私から発表 1 点ございます。

秋の交通安全県民運動について申し上げます。

9 月 21 日から 30 日までの 10 日間、「秋の交通安全県民運動」を実施いたします。

県内における昨日現在の交通事故死者数は、大変残念なことに 26 人、これは昨年同期比で 11 人の大幅増となっております。このうち、年齢別では 65 歳以上の高齢者が 13 人と半数を占めております。状態別では、自動車乗車中に亡くなられた方が 16 人、次いで、歩行中にお亡くなりになった方が 9 人などとなっております。

これから日没が早まる秋でありますので、例年、夕暮れ時から夜間にかけての交通事故が増える傾向にあります。

このような状況を踏まえ、この度の運動では「子どもと高齢者を始めとする歩行者の安全の確保」、それから「夕暮れ時と夜間の交通事故防止および飲酒運転等の撲滅」、そして「自転車等のヘルメット着用の促進と交通ルール遵守の徹底」、この 3 項目を重点に掲げて、展開してまいります。

運動期間中、県では、各市町村や関係機関・団体等と連携しながら、早めのライト点灯やエコドライブの推進、夜光反射材の着用促進、飲酒運転撲滅などに取り組んでまいりますので、皆様方の御協力をよろしくお願いいたします。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

YTS の荒木と申します。よろしく申し上げます。

JR 米坂線の復旧に関してお聞きします。今月 8 日に小国町で「復旧検討会議」が開催されて、JR 側から鉄道としての復旧を検討していくとの方針が明らかにされましたが、まずこの点について所感をお聞かせください。

そしてその上で、復旧の費用負担に関しては、国の補助制度を活用した場合に、山形県で 13 億を超える費用負担となる試算なども明らかにされました。県として復旧に向けて、こうした費用を負担する考えはあるのか、現時点で考えをお聞かせください。

知事

はい、それではお答えいたします。

先週、9 月 8 日に JR 東日本と、それから山形・新潟両県や沿線市町村が一堂に会する JR 米坂線復旧検討会議が初めて開催されました。

会議の場で、JR 東日本からは、「多額の復旧費用、工期に加え、利用者の減少等が課題であり、復旧するだけでなく、将来にわたって安定的に運営できるかどうかも含めて県や自治体と

一緒になって考えていきたい」旨の表明がありました。

それに対して、山形・新潟両県および沿線市町村から、「米坂線は災害で被災したものであり、鉄道として早急に復旧してほしい」「利用拡大策を連携して考えていく必要がある」とか、「米坂線は全国的な鉄道ネットワークとして重要な路線であり、政府が全国的な鉄道ネットワークについての方向性を示す必要がある」といった意見が出され、今後も引き続き、話し合いを継続していくこととなったと承知をしております。

また、会議終了後の囲み取材におきまして、JR 東日本から「復旧への強い要望の声をいただいたので、まずは鉄道としての復旧に向けて検討をしていく」旨のコメントがあったとお聞きをしております。

このたび、JR 東日本、山形・新潟両県、沿線市町村が一堂に会した復旧検討会議が開催されたということは、復旧に向けた第一歩として、前向きに受け止めております。

引き続き、こうした会議の場などにおきまして、JR 東日本や新潟県、沿線市町村との話し合いを行うとともに、復旧後を見据えた利用拡大や沿線活性化にも、地域と連携しながら取り組んでいくことが重要だと考えております。加えまして、米坂線は全国的な鉄道ネットワークとして重要な路線であり、全国知事会として要望しているとおり、政府に対しても早期復旧に向けた支援拡充などを求めていく必要があると考えております。

会議の中では、復旧費用の負担を具体的にどうするかについての話はありませんでしたが、JR 東日本から、仮に現行の災害復旧補助制度を活用した場合に負担額がどの程度になるのかという試算について、説明があったとお聞きをしております。

今回初めて復旧検討会議が開催されたわけではありますが、今後こうした会議での話し合いのほか、県内沿線自治体の考えをよくお聞きし、利用拡大や沿線活性化等の方策について話し合うとともに、費用負担についても頭に置きながら、今後の対応を考えていきたいと考えております。

☆フリー質問

記者

河北新報の奥島です。よろしくお願ひします。

今の米坂線の質問に関連してですが、重ねてになりますが、試算も示された中で、県としての費用負担について行うご予定があるのかということをお聞かせください。

知事

はい、このたびの会議を受けて沿線自治体においてもですね、会議内容に関する受け止めや今後の対応などについて、考えを整理されていくことと思っております。今すぐ費用ということにはならないかと思っておりますけれども、そういうことも頭に置きながら、そして、私が思いますのはですね、鉄道ネットワークということについて、やはり政府はもっと全国的な鉄道ネットワークをどうするかということをもっと本腰を入れて考えていただく必要があるん

じゃないかと思っています。ヨーロッパなどではですね、環境とかいうことを考えて、赤字、黒字というような視点ばかりでなくて、鉄道をしっかりと維持するというようなことをね、取り組んでおられるということも側聞しておりますので、私はやっぱり、そういった環境的なことも考えながら全国のネットワークをどういうふうにしていくのかという政府の大本の考えをもっとしっかりしていただく必要があるのではないかと考えています。

それから、今回災害でありましたから、災害復旧の枠が従来のものでいいのか、というようなことも、新潟県や沿線市町村ともよく話し合いながら、検討していく必要があるのではないかとこのふうにも思っております。

復旧ということがなかなか今まで、希望は出てましたけど復旧に向けて検討をしてみたいというふうに言及されたら、おっしゃったということは大変前向きなことだなと私は考えております。記者さんがおっしゃったことも頭に置きながら、考えていきたいというふうに思っています。

記者

今のお話ですと、県の費用負担について決める前に政府に更なる支援なりを求めていきたいと、こういうことでよろしいでしょうか。

知事

そうですね、それは全国的な問題でもありますけど、災害復旧と災害に遭ってないところと全く同じ、同等でよろしいのかということもありますし、この米坂線というのは、山形県と新潟県を結ぶ横軸のネットワークと言いますかね、重要な鉄道ネットワークだと思っています。そういった位置付けということもありますし、更なる政府からの支援拡充ということはですね、求めていく必要があるのではないかとこのふうにも思っております。

記者

ありがとうございます。

すみません、もう1点。冒頭にもありましたが、内閣改造が行われて、今回、知事のコメントでも触れられておりましたが、女性の閣僚が5人となって最多になったということで、まずこのことに関するご所感をあらためてお願いいたします。

知事

そうですね、今まであまりにも少ないというふうにも思っておりました。社会の人口の約半分は女性、約半分は男性。きっかりというわけではございませんけども、そういった構成になっておりますので、約半分以上を占める女性のいろいろな考えや意見、提案、そういったものもね、政策に反映されるべきだと、みんなが住みよい社会をつくっていくにはそれが大事だなと思っておりましたので、本当に女性閣僚、増えてほしいというふうにも思っておりました。タイ記録

ではありますけども5人ということになったことは、私は評価したいと思います。もう1名増えれば過去最高と言えたのになど、正直、最初思ったんですけどね。

でも、その中に本県選出の加藤鮎子議員がおられるということで、しかも子育て真っ最中の方であります。そういう方が起用されたということは何、私は大変評価するところであります。

ただ、本当に加藤鮎子大臣はですね、大変仕事と子育ての両立を本当に体現されると言いますか、今までもされてきましたけれども、大臣職というのは本当に要職でありますし、大変ご苦労も多くなるのではないかというふうにも思っております。それについてですね、やはりみんながその協力体制を敷いていく、応援していくということが大事なかなと思っております。ご家族の応援体制は万全のようでありますので、そういうふうに側聞をしておりますので、あと職場のその協力体制、そこはやっぱり必須だと思っております。そこをですね、子ども政策担当部署でしっかりと大臣が力を発揮しやすい、そういう協力体制をしっかり敷いていただきたいというふうに思います。

今、やっぱりリモートワークということもありますし、必ずリアルでというような、大臣室で執務という従来の、そういうことが多かったのではないかと思いますけども、やっぱりそこは柔軟に見直し、また、子育てにみんなが協力するという、本当にそこから始めていただいでですね、それがやはり社会全体の、民間企業でありましたり、さまざまな職場にもその影響が及んでいくというそういう好循環を私は期待したいと思っておりますので、ぜひ子育て真っ最中の加藤大臣が働きやすい環境づくりということについても、担当部署とかさまざまなどころでご努力をしていただきたいというふうに思っています。

記者

この女性閣僚の多くの抜擢について、岸田首相がですね、「女性ならではの感性や共感力を期待したい」と述べて、一部からはその言い回しに批判の声も上がっています。この発言については知事は適切だとお考えになるか、最後、お聞かせください。

知事

そうですね、私が思いますにね、適切・不適切というコメントはあまりしないでおきますけれども、そうですね、ただ、5人の女性の方の、属性として女性ということはあるわけでありまして。共感力とかそういうのはやっぱりすべての方に必要なものでありますのでね、女性としての視点というところは私はそれほど、そんなにおかしくはないのかなと思いますけれども、いろんな例を挙げる時にはやはり、いろいろセンシティブな問題なんだなということを私自身もやはり参考になった気がいたします。

そこまであまり、そうですね、なかなかコメントが難しいなと思います。すみません。

記者

NHKの岡野です。よろしく願いいたします。

先日県で会議があって、猛暑による農作物の被害の話がありまして、地主（農林水産）部長からも今後支援を検討していくというお話があったんですが、あらためてですね、知事の所感として、こういったタイミングでの支援が必要かというのをお聞きしたいのですけれども。

知事

はい。その猛暑についてはですね、今いろいろとその現場を把握している状況というのではないかと思っています。高温障害があるといったことはね、さまざまお聞きをしているところです。

冒頭申し上げましたけど、9月に入ってから高温、平年より気温の高い日が続いていて、今後も続くというふうに予想されております。

それで、現時点のですね、農林水産業全体における影響を把握して、今後の対応方針を協議するという事だと思っています。そういうわけで「農林水産業における高温・少雨の影響に係る対策会議」というのを今週の12日に県と関係団体等で開催したところであります。

今、水稻のですね、胴割粒や白未熟粒が発生することが懸念されるとかですね、あと1週間ぐらいでわかるのかなとは思いますが、それから果樹ではりんごやぶどうの日焼け、野菜ではアスパラガスの奇形芽の発生とか、畜産では本当に全畜種で死亡数が増加しているということも聞いております。実態を詳細に把握する必要があると思っていますので、きめ細かく調査して、必要に応じて対策を検討するというふうに私は指示をしたところでございます。

そういうことでありますので、しっかりと実情を把握して、どういうふうに対策をしていくかということを検討してまいりたいと考えております。

記者

例えば金銭的な支援なのか、技術的な支援なのか、具体的にまだ決まっていないとは思いますが、知事のお考えとして、例えばスピーディーな支援であるとか、こういったことが必要になるかなんていうのを、所感でもいいのですが。

知事

そうですね、技術的な支援というのはもちろんできる限りのことを、現在も引続き継続してやってくれていると思いますし、これからもそれはやっていただきたいと思っています。

水稻でありましたり、野菜や果樹がどの程度というのがありますので、やっぱりその実態に応じて、その実情を把握しないとどういったことが検討できるのかということについて、今はっきりとはやはり申し上げられないと思います。

記者

はい、わかりました。あと、先ほどの家畜の件もですね、去年と比べるとだいぶ、いわゆる

被害が増えているということなのですが、このあたりの対策というのは、農作物とはまた若干毛色が違うと思うんですが、そのあたりの支援、方針というのはどうでしょうか。

知事

そうですね、実情としてですね、牛とかですね、豚もそうですけども、ニワトリがかなり亡くなっているというようなことはですね、お聞きしているところです。魚も確か変死しているということも聞いております。それについても今回、高温による障害だと思いますので、そこをやはりどういうふうにするか、高温を薄めると言いますか、どのような抑制策があるのか、水を含めですね、技術的なことも含め検討しなきゃいけないと思いますし、あと、生産量とか収入といったことについてどのくらいその影響があるのかということの方がやはり大きいかなと思っておりますので、今後の技術的な支援とあわせて収量・収入に対するさまざまな検討ということもやっぱり考えていく必要があるんじゃないかというふうに思っております。はっきり申し上げられなくて申し訳ないですけど。

記者

はい、わかりました。ありがとうございます。

記者

山形新聞の鈴木です。おはようございます。私からも加藤大臣に絡んで1点質問します。

これまでも全国知事会として、保育料の無償化の拡大などを政府に要望してきたことがあると思いますけれども、今この加藤衆議院議員が大臣になったというこのタイミングでですね、知事が特に政府に求めたい子ども政策というのはなんでしょうか。

知事

そうですね、加藤大臣御自らですね、保育士さんのことについても述べておられますけれども、我が県として、やはり最も早く望みたいというのは0歳から2歳児までの保育料無償化というところにですね、やっぱりもっと取り組んでいただきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。

記者

日経新聞の増淵です。

米坂線の件であらためてお伺いしたいのですが、災害復旧で言うと、現状、普通の復旧というのは国が4分の1、地元が4分の1、JRが2分1というのがスキームだと思うんですが、只見線ですと、国がその4分の1を3分の1に上げる代わりにすべて3分の1負担みたいなスキームにな

ったと思うんですけれども、先日もみらい企画創造部長も国への支援の拡大を求めるみたいなことをおっしゃっていましたが、国がやっぱりそこまで踏み込むとしたら、地方もそれだけ相応の負担をなささいというようなスキームだと思うんですが、そういったことを求められた時には、地元としてもそれを受け止めるお考えはあるのでしょうか。

知事

はい、米坂線の復旧ということで、ようやくですね、光明が見えた、見えたまで行ってないかもしれないんですけども、ただ、JR東日本さんがですね、災害によるものなので、やはり復旧に向けてということをお始めて、まだ、でも支社長でもないし、JR東日本さん本体でも、社長さんがおっしゃったわけでもないということは承知をしておりますけれども、ただ、部長さんの立場でそういうことをおっしゃったということは、背後にもやはりJR東日本さんのお考えがあるというふうに推測されますので、前進、前向きな一歩なのかなというふうに捉えております。

それで、やはり今すぐその負担ということばかり前面に出すのはまだちょっと早計かなと思っております。私は頭に置いてと申し上げました。やっぱり第1回、初めての会議での会議の内容、そしてそれを受けての囲み取材でのJR東日本さんのお考えというようなことが示された中でですね、沿線市町村がどういうふうにその考えを整理されているのかというようなことはやっぱりしっかりと県としてお考えを聞いていく必要があるなというふうに思っています。

沿線市町村と、それから新潟県と山形県とですね、みんなでやはり意思疎通をしていく必要があると思いますし、その上での費用負担なりになっていくのかなというふうに思っていますので、今ちょっと即答はできません。ただ、費用負担ということについては頭に置いて考えていきたいし、政府の支援拡充ということもやっぱりしっかりと考えていく必要があるというふうに思っております。

記者

費用負担を頭に置くということは、やっぱりその費用負担はある程度は地元としても必要であるというお考えでよろしいのでしょうか。

知事

そうですね、まったく負担しないというようなことにはならないというふうに思います。

記者

了解しました。ありがとうございます。

記者

読売新聞の中田と申します。お願いいたします。

今の米坂線の質問に関連してなんですけれども、JR東日本費用負担と並んで利用促進、要するに現状のままだとダメだということだったんですけれども、この利用促進のほうはですね、新潟県のほうも囲みの取材のほうでは本気でやるのが大事だという発言が当局（新潟県交通政策局）の局長さんからありましたけども、山形県はどのような姿勢で利用促進に向けて取り組んでまいる方針かお聞かせをお願いします。

知事

はい。鉄道利用協議会（補足：「山形県鉄道利用・整備強化促進期成同盟会」のこと）のほうですね、「(やまがた) 鉄道沿線活性化プロジェクト」というのをですね、立ち上げてもあります。米坂線に対してどういうふうに利用拡大、沿線活性化に向けてですね、どういったことに取り組んでいくのかということにつきましては、やっぱり沿線市町村と一緒に検討してまいりたいというふうに考えています。

人口減少ということももちろんありますけれども、鉄道の利用ということは非常に重要なところだと思っています。それが先ほども申し上げたのですが、環境問題、あるいは観光客誘致といった視点もですね、しっかりと取り入れて、政府としてもやはりそれは考えていくべきだと思うし、地方自治体、また沿線自治体も一緒になってしっかりと取り組んでいく必要があるというふうに思っています。

記者

山形放送の岩崎と申します。

高温障害に関連してだったんですけど、今日の午後、知事が子どもたちと稲刈りを予定していたと思うのですが、そちら、収穫を予定していた田んぼでもそういった高温障害が見られて中止だったのか、理由を教えてくださいんですけど。

知事

ありがとうございます。すいません、急に中止になりました。

と言いますのはですね、やはり熱中症対策ということは非常に重要なところだと思っております。9月補正予算にもそのような予算を計上しているところです。また、本当に7月、8月とですね、中学生の本当に痛ましい事案でありますとか、また、集団でと言いますかね、13人くらいの方が救急搬送されたとか、そのあとでもまた体育祭で熱中症の疑いというようなことで病院に行かれたということも承知をしております。

そういったことが続いている中で、しかも今回ですね、日中で小学5年生の児童が25名参加する予定だったんですね。それが今日の気温予想は31度になっていまして、30度超えの中で、日中ですね、稲刈りをするというのは、やはりそこは慎重に考えたほうがいいんじゃないかというようなことで、やっぱり子どもさんたちの命と健康も考え、また、マスコミさんたちもその重たいカメラ、もう10kgもあるような重たいカメラをお持ちになって現場に行かれて、そし

て10分、20分じゃ済まないんですよね。開始式をやって、そして稲刈りをやって、記念撮影をやったり、取材とインタビューというようなことまで含めると本当に30分を超えるかなと思いますし、そういったいろいろなことを考えて、本当に子どもたちばかりでなくマスコミさんも、それから私ども自身も、みんなのことを考えてやはり今回は総合的に判断して中止したほうがいいんじゃないかというような内部の検討に至ったところでございますので、本当にご理解、ご容赦をいただきたいというふうに思います。すいません、急に。